

さくらマネー通信 No.98

2025 年
9 月号

～気軽に読めて役に立つマネー情報をお届けします！～

特集 景気動向指数で、騒がしい経済を客観的に読み解く！

物価高騰、株価の乱高下、トランプ関税…。2025年の経済は何かと騒がしい状況が続いています。日本では景気を測る重要な指標のひとつとして「景気動向指数（CI）」が活用されています。これは「先行指数」「一致指数」「遅行指数」の3種類で構成され、毎月内閣府から発表されています。

先行指数は、今後の景気の方角性を示すもので、東証株価指数（TOPIX）や新規求人数などが代表的。株価は人々の期待や不安を先取りし実態経済に先行して動く傾向にあります。

一致指数は、現在の景気の状態を表し、有効求人倍率、鉱工業生産指数、営業利益などが代表的です。6月時点では輸出や生産が好調で、下げ止まりの兆しが見られました。

遅行指数は、景気変動の影響が遅れて現れる指標で、消費者物価指数（CPI）や家計消費支出などがあります。物価は景気上昇の後に上がる傾向があります。

景気は感情で動くといわれます。しかし、短期的なニュースに一喜一憂しないためにも、客観的な数字で、経済の流れを把握することも重要です。

景気動向指数の推移（一致指数）（2020年=100）



出典：景気動向指数（長期系列）/内閣府

? マネークイズのコーナー

隣の家の出火が原因で、あなたの家が延焼しました。あなたの家の損害は誰の火災保険で補償されるのでしょうか？

- 1 隣の家の火災保険
- 2 あなたの家の火災保険
- 3 どの保険でも補償されない

（答えは裏面にあります！）



今月のお知らせ

9月を代表するスイーツ「モンブラン」。フランス語で「白い山」を意味し、実は栗とは関係ありません。

日本で最初にモンブランを作った洋菓子店が栗を使用し、商標登録をせず広く親しまれることを願ったため、モンブラン＝栗というイメージが生まれたそうです。



コラム 投資のリスクは敵ではない。上手に付き合うことが大切！

「投資は怖い。元本が減ったらどうしよう…。」そう考える方は少なくありません。しかし、投資の世界でいう「リスク」とは、単に元本が割れること、損すること、ではありません。本来の意味は、価格の変動幅や将来の不確実性を指します。例えば、株式は短期的に大きく値動きします。1年で+20%になることもあれば、-15%になることもあります。この変動幅そのものがリスクです。逆に、金利0.3%の定期預金に預ければ、1年後、99.9%の確率で0.3%の利子を受け取ることができます。つまり、定期預金はリスクが極めて低い一方、リターンも小さくなるわけです。また、リスクは資産分散で抑えることができます。株式、債券、不動産、コモディティ（商品）など値動きの異なる資産に分けて持つことで、お互いのブレ幅が相殺され、資産全体のブレ幅（＝リスク）を小さくすることができます。

リスクは必ずしも悪いものではありません。リスクがあるからこそ高いリターンを得られる可能性があり、リスクが低いほど期待できるリターンも小さくなります。大切なのは、リスクを正しく理解し、自分の許容範囲に合わせて投資商品や配分を決めることです。

投資を始めるときは、「いくら増えるか」だけではなく「どれくらいのブレに耐えられるか」を考えることが重要です。リスクを敵とせず、付き合い方を学ぶことが、安定した資産形成への第一歩となります。



A マネークイズの答え

答えは 2



「あなたの家の火災保険」です。日本では失火責任法により、重大な過失がない限り延焼の損害は加害者側の保険では補償されません。

編集後記

総務省の家計調査によると2024年の「エンゲル係数」は28.3%となり、1981年以来の高水準となっています。家計に占める食費の負担が増えていることが分かりますが、猛暑による不作・不漁や、円安による物価上昇等が原因として考えられているようです。

これから迎える実りの秋。猛暑の中で作業をされていた生産者の方々に感謝しながら秋の味覚を味わっていきたいですね。

発行

合同会社さくらコンフォートライフ 鈴木 博幸

新 NISA・資産運用で、お悩みの方は、お気軽に！！

お問い合わせは LINE ID:suzukihiro827 まで！

